

# 追手門つて、こんな大学！ ユニバーシティ・アイデンティティ(Uー)、決定。

追手門学院大学の「ユニバーシティ・アイデンティティ(Uー)」が決定した。「想像もしなかった自分史がはじまる」がスローガン、「自分史上、想像以上！」がキャッチコピーとして、ステートメントやUIコミュニケーションマークと共に今年度から使用される。

このUーは、本学のあり方を学外へ、表明するものであると同時に、本学に関わるすべての人にとって、指針となるものだ。

決定にあたっては、多くの学生・教職員へのインタビューや資料分析、複数回にわたるワークショップ議論を実施し、「追手門の学生像」と、それをふまえた「追手門の担う役割」を吟味、検討しながら進められた。

そしてなにより——追手門で自らの新たな可能性を見だし、入学した時には想像もしなかった成長・飛躍を遂げて、社会へと羽ばたいてほしい——との願いが込められた、大学から学生一人ひとりへの「メッセージ」でもある。

## 自分史上、 想像以上！

UIコミュニケーションマーク  
デザイン

※上記マークには複数の仕様があり、表紙に使用しているものも、バリエーションの一つです。

スローガン

想像もしなかった自分史が  
はじまる

キャッチコピー

自分史上、想像以上！

ステートメント

追手門学院大学の教育理念は、  
「独立自強・社会有為」。

人文・社会科学系の多様な学部が一同に集い、  
学生と教職員との顔の見える関係を活かし、  
誰もが学生一人ひとりと向き合い、  
個性を尊重した成長支援を行います。

伝統の自由な校風と、北摂の豊かな環境のもと、  
学問だけにとどまらず、  
地域活動や学内での多彩な成長の機会に学生を導き、  
主体性を引き出します。

専門教育、研究と同じく重要な、  
人間教育からキャリア教育までを通じて、  
大学4年間の個々の成長に責任を果たすことを使命とします。

地域からグローバル社会までの様々な場で、  
社会的使命実現のために行動し、  
自分を変えていける人材に。

その成長の場が、追手門学院大学です。

人権について考えよう

## 「コミュニケーションの難しさ

副学長 水藤龍彦

(基礎教育機構教授)

日本人同士で議論しているときに、自分の意見を否定されると、激してしまう人がよくいます。反論されただけで感情的になってしまうのです。自分の人格を否定されたわけではないのに。

なぜでしょう？ すぐに思い出されるのは、日本の教育文化の中にディスカッション教育が根付かなかったことです。現在のカリキュラムには含まれていると聞きますが、まだその効果を感じる機会はありません。

「コミュニケーションの日本語」(森山卓郎)に興味深い例があります。

ほかに、日本人は「体面」を重んじる傾向がつかよいか、ムラ社会の気質が残存しており、意見対立をそもそも好まないということも言えるでしょう。少し古い映画ですが、山田洋次監督の「男はつらいよ」を見ると、思い当たるシーンがよく出てきます。主人公は、日本人としては珍しく歯に衣を着せないタイプの人物なので、なにげない会話の中に少しでも意見の対立が生じると、あつという間に喧嘩になってしまうのです。観る者は「ああ、またか。いつものパターンや」と文句を言いたくなりませんが、大げさに言えば、日本人のコミュニケーションの難点を突いていると言えるかもしれません。日本の社会では意見

ある母親が、自分の娘がいつまでも部屋を片付けないので、叱りつけたところ、こんな答えが返ってきたのです。「お母さんはなぜもっと冷静に話ができないの？」そして、片づけが今はできない理由を理路整然と語ったということです。

この話には背景があって、親子はフランスで生活しており、娘はフランスの教育を受けていたというオチがつかます。もし日本の教育を受けていたら、こんな返答ができたかどうか。こういった親子の会話は、子どもがおとなしく従うのではない限り、しばしば「怒鳴りあい」になるケースが多いと思われれます。

それどころか、「キレた」とか「怒鳴った」ことを誇らしげに語る人もあなたの身の回りにいないでしょうか。そういう場面では右の娘さんの言葉を投げかけてみるのはいかがでしょうか。

「怒鳴った」ことを誇らしげに語る人もあなたの身の回りにいないでしょうか。そういう場面では右の娘さんの言葉を投げかけてみるのはいかがでしょうか。